

震災文庫デジタルアーカイブ・サンテレビジョン撮影の震災取材映像を公開 ～阪神・淡路大震災から1万日目の節目に65件を追加～

【はじめに】本学は令和3年7月2日に、株式会社サンテレビジョンと包括連携協定を締結しているが、同社が阪神・淡路大震災の取材時に撮影した大量の映像の、附属図書館震災文庫デジタルアーカイブによる保存と公開は、協定における主要な取組である。協定締結から1年、その成果を報告する。

【これまでの歩み】令和2年の初秋に、サンテレビジョンより取材の折に震災当時の映像の保存公開について相談があったのが発端である。そこで、「震災文庫」にて阪神・淡路大震災関連資料の収集・提供を継続してきた附属図書館と、震災を研究対象とし、デジタル資料の扱いにも見識のある人文学研究科の教員とが連携し、サンテレビジョンも交えた三者で映像公開の検討と準備を進めることとなった。作業の結果、附属図書館震災文庫デジタルアーカイブにて、これまで3回、映像を公開している。

【公開映像について】

■「阪神・淡路大震災」(令和3年1月公開、19分06秒)

サンテレビジョンが、大都市を襲った直下型地震の猛威と被害を教訓として広く防災意識の高揚を図るため、同社の取材映像から編集して制作したものである。

■取材映像(令和4年1月公開8件、約80分)(令和4年6月公開、65件、約115分)

同社のカメラマンが被災地での取材時に撮影し、当時の震災報道で素材となったビデオテープに由来する。そこに収録された映像を、場面ごとに数秒から数分程度に分割し、撮影場所、時刻、内容等のデータと共に公開したものである。



震災文庫 HP : <https://da.lib.kobe-u.ac.jp/da/eqb/>

【映像の特色】

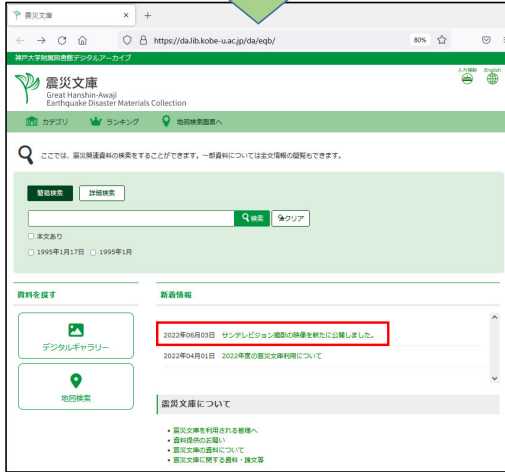
■被災地のテレビ局だからこそ撮影できた貴重な映像を多数公開している。例えば、地震当日午前中の神戸市内の映像は、在京・在阪のテレビ局は被災地に足を踏み入れ撮影できなかったものである。当日の淡路島の映像は現地駐在のカメラマンが撮影したもので、地元住民とも顔なじみのため、被災現場の至近距離で撮影されている。

■被撮影者の権利関係に配慮して公開可否を判断している。デジタルアーカイブ学会が公表した「肖像権ガイドライン」を参考に、映像を目視して、経過年、被撮影者の地位や活動内容・立場、撮影の場所、写り方、状況等を要素にポイント計算を行い、それを踏まえて、前記の三者で協議のうえ判断している。Web公開するものは、モザイク・ぼかしは不要と判断したもので、こうした加工は実施していない。

【期待される効果】企業である民放テレビ局が所蔵している映像資料を、公的機関である国立大学が保存・公開することは、その持続性を高め、震災の記録と記憶・教訓の次代へ継承に寄与するものである。災害史や地域史、防災・減災科学の研究や取組における史料として、また防災教育における教材として、今後も広く活用されることが期待される。

震災文庫のHPは記者会見後の8月29日にリニューアルしました。
 会見時の発表スライドでの5枚目と6枚目に相当する、現在のHPの画面と検索結果を改めてお示しします。

震災文庫



<https://da.lib.kobe-u.ac.jp/da/eqb/>



検索結果の一覧からタイトルをクリックすると映像のページに移動します。



画面の上方に映像が、その下に映像のデータが表示されます。

メタデータ	
メタデータID	0100475652
資料種別	video
タイトル	海神・淡路大震災 からサンテレビジョンまで
作成者	作成者名: 高橋, 寛[制作担当] 作成機関: サンテレビジョン[制作機関]
シリーズ名	海神・淡路大震災関連映像 からサンテレビジョンまで
出版年	[サンテレビジョン]
発行日	1995-06-29 1995-01-17